

令和4年度第1回那須烏山市総合政策審議会会議録

■日 時：令和4年5月20日（金）午後1時55分～3時40分

■場 所：烏山庁舎 第2会議室

■出席者：

（審議会委員）

中村祐司委員、赤羽幸雄委員、中村泉委員、高橋正泰委員、渡邊和枝委員、小田戸豊行委員、高橋信一委員、加藤光一委員、島崎健一委員、大嶋照夫委員、小堀恵美子委員、大橋誠委員、水井智久委員、保知範繁委員、佐藤哲男委員

（事務局）

○総合政策課：菊池参事兼課長、関主幹、郡司係長、川瀬主事、平山課長補佐、田嶋主査

■協議事項（概要）

（1）会長の互選等について

・会長の互選

互選の結果、中村祐司委員が会長に決定した。

・職務代理の指名

中村会長が職務代理者として島崎委員を指名し、決定した。

・諮問

川俣市長から中村会長に対し、那須烏山市総合政策審議会設置及び運営条例第3条の規定に基づき、第3次総合計画基本構想及び基本計画の策定について諮問した。答申については、令和4年12月28日までになされるよう依頼した。

（2）第3次総合計画策定方針の説明について

郡司係長） 第3次総合計画策定方針について資料に基づき説明した。

～質疑なし～

（3）市民意向調査の結果の説明について

郡司係長） 市民意向調査の結果について資料に基づき説明した。

～質疑なし～

（4）本市の財政状況について

郡司係長） 本市の財政状況について資料に基づき説明した。

～質疑なし～

（5）市政運営に関する意見交換について

関主幹） 有志による勉強会における主な意見について、資料に基づき説明した。

会長） どうしても行政と市民との間に距離、ギャップがあるのが課題。その意味でも、こ

ういった市民有志による意見というのは非常に重要。今後もコツコツと取組を続けてもらって、我々が議論する上でのヒントにさせていただきたい。

委員) 勉強会での意見にもあったが、行政から市民への情報提供が足りていない。ホームページや広報紙などで全く情報提供をしていないわけではないが、「知らない、市が勝手にやっている、大事なポイントについて聞いていない」という思いがとても多い。総合計画についても、一般市民からすると、とても縁が遠いもので、知らないところで知らない人が何か作ってやっているという認識になってしまう。策定する過程で、策定方針の中にもある「市民から意見や提言を聴取し計画に反映させるため、各種広聴事業を実施する」とあるが、ここを工夫してやっていただきたい。直接会って話をする機会をいろいろな場面で作るといいのではないか。雑談レベルで話すとみんな意見が出るのに、なかなか言う機会がない。現状に対する課題についての共通認識をできるだけ作っていかないと単に計画だけで終わってしまう。

委員) 資料「第2次総合計画成果指標等一覧」において、「那須南病院への婦人科の設置」が未設置のままとなっており、進んでいない。子育ての面や住みやすさなど、若年世代が定着する大きなポイントになる。ただ待っているのではなく、例えば、大学病院をリクルートするとか、給料に上乘せしてでも医師を引っ張ってくるなど、市として本腰を入れて整備すべき

委員) 第2回目の有志勉強会にも参加し、資料にある主な意見について、個人的にもそのとおりだと感じている。皆が市に対して閉塞感を感じているように思う。平成の時代は、ハコモノが悪者のように扱われていたと思うが、今は、全国的にもコンパクトシティの形成を図っていく中で、昭和の時代の公共施設等を見直そうというタイミングに来ている。勉強会に参加していた市民の意見としても、積極的に整備しなおしていくべきという考えである。子結び団の活動の中で、主婦の方と接する機会が多いが、そのときに話をすると、「あれが欲しいよね、これが欲しいよね」といった意見が多い。近隣の市町に出かけたときに、同じ規模の市町は図書館やこども館などの施設を建て替えているのに、那須烏山市だけ古いままだよねといった意見もよく聞く。大きな方向性として、財政状況の説明であったように、厳しい財政状況の中でも、インフラ整備等はある程度やっていける余力があるとのことなので、その方向で考えていただきたい。何か事業をやるときに、赤字になるということだけを見るのではなく、投資したことによって雇用や市民サービスとして還元されているということを市民に伝えていかなければならない。

委員) 今回の審議会の名簿を見て、非常にがっかりした。女性委員が3名しかいない。以前から市長には女性の比率を増やしてほしいと要望してきた。県では、女性の比率の目標を4割と設定し、すでにそのようになっていると聞いている。女性の意見をいろいろな場面で吸い上げて、反映させていくことが市にとっても必要だと思う。女性が暮らしやすい街というのは、男性にとっても、子供にとっても、老人にとっても暮らしやすい街になっていくはずである。

関主幹) 本市においても、第2次総合計画の中で、政策決定の場における女性登用率3割を目標として掲げていながら、今回の審議会においてその目標に届かなかった。今後、

様々な広聴事業を進めていく中で、女性の意見も取り入れながら進めていく予定。女団連の皆様にも忌憚のない意見をお聞かせいただければと考えている。

委員) 本市の財政状況についての説明を受け、健全な財政運営がなされていることは理解できたが、将来に向けた税収増について考えているのか。

郡司係長) 住民税は横ばい、固定資産税は微増の傾向。税収増に向けて、住民税がメインとなるが、市内の平均所得を上げていく必要がある。そのための雇用対策が重要になってくると考えている。

委員) 定住促進について、市外に向けてPRすることも大切だが、対外的なPRにお金をかけるより、市内に住んでいる人の満足度を上げるためにお金をかけていただきたい。外から人を呼ぶより、転出抑制の方が現実的だし、積み上がっていくものがあると思う。市が良くなり、今住んでいる人の満足度が上がれば、市外からも人が来るはずである。

委員) JR烏山線について、Suica が使えず利便性が悪いので改善していただきたい。自治体として働きかけ等は行っているのか。

関主幹) 市としても、JR烏山線の利便性向上のため、JRに対し、ここ数年継続してSuica導入を要望しているところだが、1日の利用者数がJR側の定める基準に満たないため、導入に至っていないのが現状。烏山線沿線や駅周辺をどう整備していくかという姿勢を見せることによって、導入のハードルを下げる可以考虑している。

委員) 子供が小さいときにこども館によく行ったが、古く感じてしまい、結局、市外に子供を連れて遊びに行くということがあったので、幼稚園児から小学生、中学生くらいまでが遊べる公園があるといいと思う。

委員) 有志勉強会での主な意見にある高齢者居住施設と商業施設が誘導した「終の棲家」の整備について、非常に合理的でいいと思う。都会ではこういった施設整備を推進しているところもある。田舎だと、高齢になって身の回りのことができなくなったので施設に入るというケースが多いが、都会だと自分で選べるうちに入ってしまうという考えで、高齢者施設に入ってそこから通勤している人も結構いたりする。合理的に考えられる人にとっては、非常に利便性が高いと思う。逆に、高齢者向けの制度やサービスが便利すぎてしまうと、かえって家族や地域との繋がりが希薄化してしまうこともあるので、どうバランスを取れば住みやすい街になるのか考える必要がある。

委員) ここ数年、高齢世帯が増え、亡くなったり、施設に入所したりで、ますます人が減り、地域コミュニティの維持が難しくなっている。広い意味での地域福祉についても、計画に入れておいた方がよい。

委員) 街にとって一番大事なものは、どの世代においても孤独にさせないことだと考えている。温かい繋がりがあれば、誰もがずっとその街に住みやすくなる。若年層が元気で経済的にもお金を生むので、若年層を呼び込むことも大切だし、高齢化対策としてお年寄りにも優しくなくてははいけないし、一生安心して暮らせる街づくりが大きなテーマとしてあるように思う。女性として思うのは、近年シングルマザーの方が多い。そういった方々に寄り添える場所や手立てがあると、もっと女性が活躍できるきっかけや活躍の場ができると思う。

- 委員) 今般、農業経営が厳しい状況で、大きい農家に対する支援も必要。逆に規模の小さい兼業農家に目を向けると、耕作放棄地が少ない地区もあることに気づく。そのような地区は、農産物直売所があって、そこに作物を持ち寄って情報交換をするなどのコミュニティが形成されているからである。身近に直売所があることが、高齢者にとって暮らしやすさにも繋がるので、こういったコミュニティの形成を支援する必要がある。また、デジタル化の観点から、いち早く5Gを取り入れて整備することで、若者の定着化にも資すると考える。
- 委員) 烏山駅前の活性化の理想としては、黒磯駅前のようなイメージである。駅前で軽トラ市を開催したり、直売所をもうけるといったことも一案。駅前周辺の空き家については、市として整備してテナントにして活用できないか。烏山線の廃線を防ぐためにも、駅周辺の環境を整えていかなければならないと考えている。
- 委員) 行政で環境を整えてもらい、龍門ふるさと民芸館を活性化させるなど、盛り返してきているが、このままだここで止まってしまう。今は、昔からある既存のものをブラッシュアップしながらなんとか人を呼んでこようという段階だが、既存のものにプラスして観光協会で新しいものを作っていければ、より活性化に繋がっていく。そのためには、行政と民間と観光協会とでうまくサイクルを作って取り組んでいかなければならない。担い手については、若い方が稼げる環境を作っていかなければならない。
- 委員) まちづくりというのは、自分が生まれ育った郷土、住んでいる郷土に誇りと愛着を持てること、それが一番肝心と考えている。本市が誇れるものとして、アンケート結果では、自然や文化資源と書かれている。やはり住民の心を大切にすべきと考える。本市に住んでいる人が、愛があって、優しさがあり、外から来た人にはおもてなしをする、そういった心の面を重視できる施策があるといいと思う。
- 委員) 住んでいて大きな不便は感じず、生活で困ることはないが、仕事として他市町の支店を回ってきた中で、烏山は他に比べて元気がないと感じている。空き家バンクや空き店舗の活用といったところで、烏山市街地は店舗兼住宅が多いこともあって、マッチングが難しい。事業承継やM&Aといったところも課題となっている、八溝縦貫道路の話が出たが、そういった主要道路は、経済の発展に大きく影響する重要なものであり、行政としても力を入れて本市を通るように働きかけるべき。沿道の活性化にも繋がり、人も集まる。本市はなかなか道の駅ができないというのは、道の駅ができて、本市は稲作が主流のため、売るための農作物がないという状況もあると思う。国と県も絡んで課題となっている塩那台の耕作放棄地を開墾するなどして解決に繋げることができないか。農業生産法人を誘致して何かやるというのも一案。農業資源、観光資源をうまく生かし、古いものと新しいものの融合に取り組んでいくことで、少しずつ活性化していくのではないかと考えている。
- 委員) 烏山の方と話すと、烏山線があることが強みだとよく聞く。駅前に賑わいがあったとしても、その人たちは電車には乗らないのではないか。どうしたら烏山線を存続させられるのか、乗客数を増やせるのかという視点で考えるべき。JRとタイアップして、烏山線に乗らないと体験できない何かを提供するとか、一般の乗客を電車に乗せるために取組をしなければならない。

委員) 一番の課題は、人口減少が急速に進んでいる過疎化をどう改善していくのかということ。様々な施策が必要になってくる。とある企業にお邪魔して課題を聞いたときに、人手が足りないとのことであり、栃木銀行でもいろいろなサービスを持っているので、提案しようとしたところ、烏山には来られないと言われたことがある。つまり、烏山は遠い場所だと思われる。従業員が宇都宮からは来ないので、烏山で人材を探すしかないと話している事業者もいた。やはりインフラ関係は重要なのかなと思う。過疎化を少しでも改善するために、こういった場で話し合っている知恵が出せればと思う。

(2) その他

関主幹) いろいろな方の意見を踏まえながら検討していくことになるが、有志勉強会で出た意見や委員から出た意見を総称すると、前例踏襲型の施策ではなく、本市独自手法によって差別化を図り、思い切った街づくりを進める必要があるのではないかと感じている。本日出た意見をまとめるとともに、引き続きいろいろな方の意見を個別に聞くなど、現状と課題を整理した上で第2回の会議に臨みたい。次期計画の5年間は、市民が望む取り組みを着実に実行し、現状から大きく転換するいい機会だと思っている。様々な方々の意見を聞きながら粛々と準備を進めたい。第2回会議は6月末頃に予定しているので、日程は別途調整させていただく。いろいろなご意見があれば総合政策課までご連絡いただきたい。

以上、記録とする。